

医学教育モデル・コア・カリキュラムの冒頭に、下記のとおり、「医師として求められる基本的な資質」についての記載を新設することとする。

改訂案	現行
<p>○ <u>医師として求められる基本的な資質</u></p> <p>① <u>人の命と健康を守る医師の職責への十分な自覚のもとに、医師の義務や医療倫理を遵守し、絶えず患者本位の立場に立つ。</u></p> <p>② <u>生命の尊厳についての深い認識のもとに、豊かな人間性を有する。</u></p> <p>③ <u>医師としての業務を遂行する職業人として必要な実践的能力（統合された知識、技能、態度・行動に基づく総合的診療能力）を有する。</u></p> <p>④ <u>人間理解に立った高い協調性のもとに、医療チームの一員としての行動や後輩等に対する指導を適切に行える。</u></p> <p>⑤ <u>患者及びその家族の秘密を守る。</u></p> <p>⑥ <u>医師として、地域における医療・保健・福祉等の連携および医療の経済的側面等の医療を巡る動向に関心・理解を有する。</u></p> <p>⑦ <u>医学・医療の進歩における医学研究の必要性を理解し、研究に参加するとともに、絶えず医療の質の向上に努め生涯にわたり学習する意欲と態度を有する。</u></p> <p>A 基本原則 (略)</p>	<p>(新設)</p> <p>A 基本原則 (略)</p>

「項目（A）基本事項」について、下記のとおり改訂する。

改訂案	現行
<p>A 基本事項</p> <p>4 課題探求・解決と<u>学習の在り方</u></p> <hr/> <p>(1) 課題探求・解決能力</p> <p>一般目標： 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。</p> <p>到達目標： 1) 必要な課題を自ら発見できる。 2) 自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位づけできる。 3) 課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。 4) 課題の解決にあたって、他の学習者や教員と協力してよい解決方法を見出すことができる。 5) 適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策をたてることができる。</p> <hr/> <p>(2) <u>学習の在り方</u></p> <p>一般目標： <u>医学・医療に関連する情報を重要性と必要性にしたがって客観的・批判的に統合整理する基本的能力（知識、技能、態度・行動）を身につける。</u></p> <p>到達目標： 1) <u>講義、国内外の教科書・論文、検索情報</u>などの内容について、重要事項や問題点を抽出できる。 2) <u>得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現</u>できる。 3) 実験・実習の内容を決められた様式にしたがって<u>文書と口頭で発表</u>できる。 4) <u>後輩等への適切な指導が実践</u>できる。 5) <u>各自の興味に応じて選択制カリキュラム（医学研究等）に参加</u>する。</p>	<p>A 基本事項</p> <p>4 課題探求・解決と<u>論理的思考</u></p> <hr/> <p>(1) 課題探求・解決能力</p> <p>一般目標： 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。</p> <p>到達目標： 1) 必要な課題を自ら発見できる。 2) 自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位づけできる。 3) 課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。 4) 課題の解決にあたって、他の学習者や教員と協力してよい解決方法を見出すことができる。 5) 適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策をたてることができる。</p> <hr/> <p>(2) <u>論理的思考と表現能力</u></p> <p>一般目標： <u>情報を重要性と必要性にしたがって取捨選択し、その要点を論理的に整理し、分かりやすく表現する能力を身に付ける。</u></p> <p>到達目標： 1) <u>教科書、論文や講義などの内容について、重要事項や問題点を抽出して論理的に表現</u>できる。 2) <u>自分の考えを論理的に整理し、分かりやすく表現</u>できる。 3) 実験・実習の内容を決められた様式にしたがって<u>文書または口頭で発表</u>できる。 (新設) (新設)</p>

<p>(3) 生涯学習への準備</p> <p>一般目標： <u>学問や科学技術の進歩と社会の変化に対応した生涯学習者としての能力（知識、技能、態度・行動）を身につける。</u></p> <p>到達目標： 1) 生涯学習の重要性を説明できる。 2) <u>生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。</u></p>	<p>(3) 生涯学習への準備</p> <p>一般目標： 学問や科学技術の進歩と社会の変化に対応した生涯学習者としての<u>態度、技能と知識を</u>身につける。</p> <p>到達目標： 1) 生涯学習の重要性を説明できる。 (新設)</p>
<p>(4) 医療の評価・検証と科学研究</p> <p>一般目標： <u>医療の改善のために不断の評価・検証と倫理的および患者の利益と安全に配慮した科学研究が必要であることを学ぶ。</u></p> <p>到達目標： 1) <u>科学的根拠にもとづいた医療の評価と検証の必要性を説明できる。</u> 2) 患者による医療の評価の重要性を説明できる。 3) <u>研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進のために行われるべきことを説明できる。</u></p> <p>4) <u>医療改善のための科学研究（臨床研究、疫学研究、生命科学等）に参加する。</u></p>	<p>(4) 医療の評価</p> <p>一般目標： 医療の改善のために不断の評価が必要であることを学ぶ。</p> <p>到達目標： 1) 科学的根拠に基づいた医療の評価の必要性を説明できる。 2) 患者による医療の評価の重要性を説明できる。 (新設)</p> <p>(新設)</p>

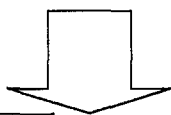
「項目（G）臨床実習」について、下記のとおり、「地域医療臨床実習」に関する項目を新設するなどの改訂を行う。

改訂案	現行
<p>G 臨床実習</p> <p><u>臨床実習を行うに当たっては、個々の臨床実習を独立して行うのではなく、体系的に遂行させる統轄責任者が必要である。</u></p> <p>1 全期間を通じて身につけるべき事項 (略)</p> <p>2 内科系臨床実習 (略)</p> <p>3 外科系臨床実習 (略)</p> <p>4 救急医療臨床実習 (略)</p> <p>5 地域医療臨床実習 <u>一般目標：</u> 地域社会（へき地・離島を含む）で求められる医療・保健・福祉・介護の活動について学ぶ。 <u>到達目標：</u> 1) 地域のプライマリ・ケアを体験する。 2) 病診連携・病病連携を体験する。 3) 地域の救急医療、在宅医療を体験する。 4) 多職種連携のチーム医療を体験する。 5) 地域における疾病予防・健康維持増進の活動を体験する。</p> <p><u>実習形態：</u> 学外の地域病院、診療所、保健所、社会福祉施設など</p> <p><u>症 例：</u> 地域病院あるいは診療所などの状況に応じた症例</p>	<p>G 臨床実習</p> <p>(新設)</p> <p>1 全期間を通じて身につけるべき事項 (略)</p> <p>2 内科系臨床実習 (略)</p> <p>3 外科系臨床実習 (略)</p> <p>4 救急医療臨床実習 (略)</p> <p>(新設)</p>

今後推進すべき教育者・研究者の養成方策について

【現状の主な課題】

- ・医療の高度化、疾病構造の変化、研究の学際化等により、先端・臨床研究の重要性増大
→ 研究能力を備えた臨床医が必要
- ・新医師臨床研修制度の影響等による、研究開始の遅れ、指導者層の負担増
- ・博士号取得のメリットが不明確
- ・医療水準向上のため、勤務医等の志望者も、研究活動により、科学的・論理的思考力を身につけることが必要



1 学部教育の改善について

- ・コア・カリキュラム改訂（「医師として求められる基本的な資質」、「学部教育における研究の視点」の記載の充実など）
- ・早期からの研究マインドの育成（学部生の研究室配属、選択制カリキュラムの充実）
- ・幅広い教育の提供（教育特任教授等の活用、単位互換等の大学間連携、ジョイントディグリー、主専攻・副専攻制、学士編入学の活用など）

2 大学院教育の改善について

○養成目的とキャリアパスの明確化

- ・大学院の目的の明確化（研究者養成と臨床医等養成）
- ・臨床医・臨床研究者・基礎医学研究者のそれぞれのキャリアパスの明確化とキャリア形成への支援
- ・教育者・研究者を目指す医師に対する、経済的支援も含めたキャリア形成支援の充実の検討

○教育内容の改善等

- ・地域の医療機関と連携したコースワークの工夫・改善（臨床教授制度の活用など）
- ・大学病院での臨床教育の改善（研究等を目的とした診療従事のカリキュラムへの位置づけなど）
- ・基礎・臨床研究の双方を修得させる取組（複数教員による指導体制など）
- ・新医師臨床研修の研修プログラムの工夫改善（例：英のアカデミックF2プログラムを参考とした研究マインドを育む研修）

○体制整備等

- ・公衆衛生大学院の整備促進（教員養成、カリキュラム開発、処遇改善など）
- ・他分野の人材の育成（修士課程の活用、社会人受入）
- ・大学院に進学しやすくする取組（秋季入学、早期進学コースなど）
- ・米国のMD/Ph.Dコースを参考にした早期進学特例の活用（休学制度の活用、カリキュラムの工夫改善、処遇改善など）
- ・専門医養成における大学院の取組の充実、大学院と大学病院との連携の充実
- ・博士号取得が教育者・研究者のスタートライン等として実感される取組（取得を助教採用時に必要条件とすることなど）

3 その他

①教育者の教育能力開発の推進

- ・ 用の充実（実習担当教員と臨床教授、基礎と臨床の両者の用など）
- ・ 教員の適正な評価、評価手法の充実（能力評価など）
- ・ 教育業績の優れた教員へのインセンティブ（顕彰、給与上の処遇など）

③若手の研究者・教員への支援

- ・ 助教制度を活用した若手研究者等の育成（スタートアップ支援、採用選考の工夫改善など）
- ・ 医学分野の特性に配慮した支援の充実（特別研究員制度の対象年齢の引き上げの検討など）
- ・ 若手教員への留学支援（経済的支援、研究休職など）

②教育研究組織の整備

- ・ 教育研究の目的を踏まえた教員組織の編成（学問体系主体の講座制の見直しなど）
- ・ 関係者の有機的な連携（複数の専攻分野を有する教育研究組織の整備、領域横断型研究プロジェクト制など）
- ・ 教育研究基盤の充実のための国の財政的支援（教育研究ポストや指導層の充実など）
- ・ 産業界等との連携（寄附講座の設置、それによる教育研究ポストの確保など）
- ・ 中間層への支援と事務系職員役割の充実
- ・ 研究・臨床現場間の人材流動性の向上（任期制の活用など）

④治療を含めた臨床研究の推進

- ・ 大学を中心とした組織体制の整備（データセンター、専門家養成等の役割の推進など）
- ・ 全国的な拠点整備（教育・研修・実施支援）

